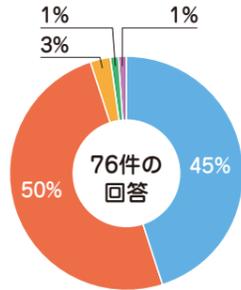


実施報告会に参加された皆様の声 -アンケート結果-

参加者93名のうち77名から回答あり。(回答率83%)

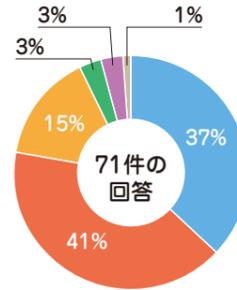
今回の実施報告会は、今後の町内会活動に役立つと思いますか？

- 大いに役立つ
- ある程度役立つ
- 普通
- あまり役立たない
- 役立たない



今回の実施報告会参加後における町内会活動のデジタル化に関する考え方について一番近いものをお答えください。

- 前向きに取り組む気持ちになった
- 考え方ややり方が分かり、気が楽になった
- 変わらない
- 不安や負担感が増した
- デジタル化は難しいと感じた
- その他



町内会デジタル化推進事業とは？

本事業は、町内会におけるデジタル技術の活用による運営の効率化、課題解決を推進するため、町内会に専門家を派遣し、伴走型支援を行うとともに、参加団体による事例発表会を実施し、取組みの横展開を図るものです。

今回の実施報告会で発表した事例以外には、「情報が届きにくい」という課題解決のために匿名参加が可能なLINEオープンチャットを活用したほか、町内会ホームページのリニューアルやGoogleフォームを用いたアンケートの実施などの取組みも行いました。

本事業でデジタル化を進めるときに、特別な知識や技術は必要ありません。デジタルツールの導入にあたっては、「デジタルは難しいのではないか」という心理的ハード

ルや個人情報管理への不安、デジタルに不慣れな方への配慮、費用に関する不安などの課題も、役員の皆さまが前向きに話し合いを重ね、「できるところから少しずつ」という姿勢で取り組んだ結果、着実な前進が見られました。

町内会が持つ課題は、町内会の実情や構成する会員によって千差万別です。そのため、本事業では皆様とお話をしながら、課題に対してどのようなデジタル技術が活用できるのかをアドバイザーが皆様とともに考えていくことを重視しています。自分たちのペースで無理なく活用を続けていくことで、地域のつながりを支える新しい選択肢として、デジタルが自然に根づいていくことを期待しています。

本事業で取り組んだ町内会の皆様の声

支援を受けた各町内会の皆様にアンケートを行っており、その一部を紹介します (誤字や用語の調整のため、一部修正しております)

- 役員同士のコミュニケーションが非常に良くなり、町内の出来事が、色々連絡が入るようになりました。来年度は各班長との連絡網にも拡大したいと思います。
- デジタル化の必要性は理解していたが、きっかけが無くなかなか進まない状況のなか、仙台市の町内会デジタル化推進事業が大きな起爆剤となりました。
- 技術的な支援を受ける目的で始めたが、作業の過程で当会の実態・身の丈、ひいては今後の展望が見えてきました。町内会デジタル化には百あれば百通りの在り方があり、進んでいる遅れているといった尺度ではなく、その町内会の実態に即した在りようがあるんだと思うようになりました。
- 私をはじめ、役員が高齢化しており、デジタルに不慣れでなかなか覚えられないので、知識の有る人がそばにいれば利用するアイデアも増え、気持ちも安心できます。
- 会員の高齢化が進んでおり、若手の役員が少ないという実態がある。デジタル化を進めていく流れの中で、若手の人材発掘の機会としたい。

令和7年度 町内会デジタル化推進事業 実施報告会

開催レポート



(仙台弁こけし)

開催日 令和8年
1月25日 日
13:50~17:00

会場 仙台市二日町第五仮庁舎
10Fホール
(オンワード樺山仙台ビル)

プログラム

- 事例発表 13:55~15:15
- 意見交換会 15:25~17:00

主催：仙台市

お問い合わせ

仙台市 市民局 市民活躍推進部 地域政策課

TEL 022-214-6129 E-mail sim004070@city.sendai.jp

URL https://www.city.sendai.jp/chiiikisesaku-kikaku/kurashi/r6_digital/r6dezitaruzissihoukoku.html



事例発表



泉区 泉ヶ丘四丁目 町内会



会長
内ヶ崎 昭 氏

Googleドライブを活用した役員引継ぎ資料整理の効率化

課題として捉えたこと

毎年の役員交代時の引継ぎを紙媒体で行っており、膨大な資料を短期間で確認・理解する必要がありました。また、資料はUSBメモリを使用しているやり取りであり、資料の更新作業等ができる人は限定され、加えてセキュリティにも不安がありました。そこで、役員負担軽減と資料の整理・管理を目的として、町内会の各種資料のデジタル化に取り組みました。

課題解決のために取り組んだことや苦労したこと、工夫したこと

まず、資料の共有をGoogleドライブ上で行うことから始めました。フォルダ構成は「役員用」「班長用」「会員用」に分け、立場や役割に応じてアクセス権限を設けて、それぞれが必要な情報を活用できるように設定しました。議事録、各種資料、総会資料や回覧資料等をGoogleドライブ上で共有することで、USBメモリのやり取り等をしなくとも、各担当が同時に資料にアクセスできるようにし、資料作成の効率化も図りました。また、年間行事の周知用として令和7年度班長会議・他予定表を作成し、何月何日をするかを分かりやすくしました。役員交代が年度ごとに行われるため、次年度以降の体制では今回取り組んだデジタル化を継続していくことは難しいと思われました。そこで、次年度以降もデジタル運用の相談役として3名を配置し、長期的に続けられる体制づくりを進めていくことにしました。

利用したデジタルツール・サービス

- ▶ Googleドライブ (引き継ぎ資料保存)
- ▶ Googleスプレッドシート (引き継ぎ資料の一覧)

月	日	期日	会議予定内容
10月	12日	第1回	班長会議(10月12日)
11月	12日	第2回	班長会議(11月12日)
12月	12日	第3回	班長会議(12月12日)
1月	12日	第4回	班長会議(1月12日)
2月	12日	第5回	班長会議(2月12日)
3月	12日	第6回	班長会議(3月12日)
4月	12日	第7回	班長会議(4月12日)
5月	12日	第8回	班長会議(5月12日)
6月	12日	第9回	班長会議(6月12日)
7月	12日	第10回	班長会議(7月12日)
8月	12日	第11回	班長会議(8月12日)
9月	12日	第12回	班長会議(9月12日)

青葉区 国見ヶ丘一丁目 町内会



副会長
五十嵐 博 氏

会員に向けた情報発信効率化への取り組み

課題として捉えたこと

班長との連絡は個別のLINEや電話とまちまちで、連絡方法が統一されていませんでした。また、回覧板は紙媒体が中心であり、配布担当である班長にかかる負担が大きいため、班長を辞退したいとの要望もありました。加えて、いも煮会や敬老会などの年間行事の参加者の回答、集計は紙媒体で行っているため、災害時の安否確認と一緒にデジタル化することによって業務の効率化ができるのではないかと考えました。

課題解決のために取り組んだことや苦労したこと、工夫したこと

情報共有の円滑化のため、Googleドライブを活用して書類を一元管理にしました。関係する担当者がいつでも閲覧・作業できる環境を整えました。会員への情報発信にはLINE公式アカウントを活用しています。メッセージ配信だけでなく、リッチメニュー機能(トーク画面の下部にあるメニュー)を使い、町内会だよりや規約、ごみ分別情報などをいつでも閲覧できるよう掲載するなど、幅広い活用を行っています。デジタルに不慣れな会員のために、当面は紙媒体との併用が必要だと考えています。講習会の開催やマニュアル作成を通じて、町内会全体でITリテラシーの向上にも努めていきたいと考えています。

利用したデジタルツール・サービス

- ▶ LINE公式アカウント (プッシュ通知でデジタル配信)
- ▶ Googleドライブ (データ共有、回覧資料公開)



泉区 紫山一丁目 町内会



会計部長
齋藤 好幸 氏

LINEグループを活用した連絡手段の効率化と今後の展望

課題として捉えたこと

町内会運営の現状を整理し、優先的に取り組む課題を3つに絞りました。1つ目は連絡発信網の構築です。これまでは、部局ごとに情報発信手段がバラバラで、部局横断で一斉配信することができない状況でした。2つ目はサーバーの構築です。町内会の資料は、各部局でそれぞれ管理しているため、誰がどのような資料を管理しているのか、把握が困難でした。3つ目は電子掲示板の構築です。これまでは、紙の回覧板しかなく、会員に対し、タイムリーに情報を提供することができない状況でした。今回の支援では、デジタル化を通じてこれら3つの課題の解決に向けて取り組みました。

課題解決のために取り組んだことや苦労したこと、工夫したこと

連絡発信網の構築については、部局横断ではLINEグループを、会員向けにはLINE公式アカウントを通じて情報を発信することとしました。サーバーの構築については、Googleドライブを活用し、各部局の資料を管理する仕組みとしました。電子掲示板については、検討した結果、ブログ形式で構築することが現時点では最善と判断しました。これを受け、これまでの紙の回覧物を電子回覧板として掲載し、その旨をLINE公式アカウントを通じて会員の皆さまに通知することで、閲覧を促すように取り組んでいます。併せて、掲示板にGoogleカレンダーを取り入れることで、町内会運営の可視化を志向します。今後は、新たなメンバーを加えた体制強化等を検討し、これらの定着を図るとともに、より良いデジタル化の構築に向け検討を進めてまいります。

利用したデジタルツール・サービス

- ▶ LINE公式アカウント (プッシュ通知でデジタル配信)
- ▶ LINEグループ (役員間の情報共有)
- ▶ Googleドライブ (データ共有、回覧資料公開)



青葉区 花京院 町内会



事務局
小林 陽子 氏

LINE公式アカウントを活用した町内会会員への情報伝達

課題として捉えたこと

マンションにお住まいの世帯の割合が高く、情報共有の手段が主にマンション内の掲示板に限られているため、町内会からのお知らせが十分に行き届いていない状況でした。また、役員の高齢化や人手不足により、町内会活動が縮小傾向にあります。そこで、人材発掘のために登録制ボランティアの募集や情報発信のための手段としてSNSの活用を検討することとしました。

課題解決のために取り組んだことや苦労したこと、工夫したこと

情報共有ツールとしてLINE公式アカウントの運用を開始しました。LINEを利用していばすくに登録可能なため、住民の方に案内しやすいのが利点です。11月の清掃活動をきっかけに開設を告知し、「ショップカード機能」を使って参加者へのポイント付与を実施しました。ポイントが一定数貯まると粗品を進呈する仕組みとし、参加促進につなげています。清掃活動当日の様子は、写真付きで即日投稿しました。特に工夫した点は、清掃前と清掃後で同じ位置・同じ構図で撮影した写真を掲載したことです。これにより、活動の成果が一目で分かり、より多くの方に町内会活動の価値を伝えられると考えています。今後も登録者数を増やして、町内会活動の内容をリアルタイムで伝えられるツールにしていきたいです。

利用したデジタルツール・サービス

- ▶ LINE公式アカウント (ショップカード機能を活用)
- ▶ Googleドライブ (デジタル配信データの保管)



太白区 泉崎一丁目南 町内会



体育児童育成部長
大野 一志 氏

LINE WORKSを活用した役員間連絡の効率化

課題として捉えたこと

多くの町内会と同様に、役員の高齢化や担い手不足は大きな課題となっており、町内会行事への参加促進や役員負担軽減を図るための第一歩として、デジタル化に取り組みました。今回は、情報発信不足と役員間のコミュニケーション不足の改善を目的としています。

課題解決のために取り組んだことや苦労したこと、工夫したこと

情報発信の手段として、町内会広報誌「南風」をGoogleドライブに格納し、町内会の会員がアクセスすることで、いつでも閲覧できるようにしました。「南風」の原稿管理は、アクセス制限を設けた役員専用フォルダで行えるようにしています。役員間のコミュニケーションツールとしてはLINE WORKSを活用しています。LINE WORKSは勤務先で使っている方が町内会に居たため、その方にもフォローしてもらえると嬉しいというところもあり、導入に踏み切りました。LINEと同じようにトークルームでコメントにスタンプを含めたリアクションができるので、楽しみながらコミュニケーションが取れるようになりました。今後は町内会のデジタル化推進活動を周知して、地域住民の方々への活用を促進するとともに、町内会運営の効率化を推進することで、幅広い世代が参加しやすい町内会になるよう取り組んでいきます。

利用したデジタルツール・サービス

- ▶ LINE WORKS (役員間のコミュニケーション)
- ▶ Googleドライブ (データ共有、回覧資料公開)



アドバイザーから応援メッセージ

MUSASI D&T株式会社 佐藤 里麻 氏

株式会社マナライブ 木村 一也 氏

最初は「自分たちにできるだろうか」と不安を口にされていた方々が、全5回の訪問支援を重ねる中で、「これは便利だね!」と笑顔を見せてくれるようになりました。私たちが大切にしたいのは、こちらから正解を押し付けるのではなく、町内会の皆様が自分たちで「何を解決したいか」を決め、自らツールを触っていただく「自己決定」のプロセスです。身近な無料ツールが実は強力な武器になることを肌で感じていただけたのではないかと思います。「デジタルは魔法ではないけれど、地域の絆を強くするための便利な道具になる」。そう確信した皆様が、町内会同士の横のつながりも広げながら、今後も自信を持って歩みを進められるよう願っております。

5回の訪問支援を通じて、デジタルに対する不安や戸惑いもあり、「どうしたらよいか」と模索していたみなさんとともに、町内会の取り組みべき最初の課題を明確にして、デジタルツールを活用しながら、課題の解決に挑戦しました。分からないことを分からないと言い合い、助け合いながら一歩ずつ進んできたことが町内会の皆様にとって大きな力になったのではないのでしょうか。今回のデジタル化への取組で、役員間の連絡が少しスムーズになったり、集会所の管理や資料共有が効率化されたりと、町内会運営の負担軽減ができることと、これまで以上につながりを深め合うことができたのではないかと考えています。これからも、みなさんの歩みに寄り添いながら、共に考え、応援し続けます。